倉敷市真備町服部（遠田地区）

道

2018年6月

▼のっけからトイレの話で恐縮ですが、我が家のそこには一冊の本が置いてあります。今は、徳永進著『どちらであっても』です。その前は若松英輔著『言葉の贈り物』でした。かつて、長田弘著『なつかしい時間』や鶴見俊輔著『思い出袋』などもそこに置かれました。これらの本に共通することは、数ページで一つのテーマが一応完結すること。そしてそこに心をゆさぶる言葉が含まれていることです。▼トイレに限らず、僕にはそういう狭い空間が何故か落ち着きます。そこに座ったら何か読みたくなります。新聞の時もあります。先月の〈道〉に引用した長田弘さんの「対話を豊かな時間に」もトイレで読みました。▼さて、昨日読んだ徳永さんの本にはこんなことが書かれていました。「家族はいつも、不定形。正しい家族なんてない」「臨床で出会う家族は千差万別」「親と子の形は：（中略）：どうあらねばならぬ、ということはなく、それぞれの味、と考えよう」。家族を壊している僕には、複雑な気持ちになる内容です。これを受けとめる場はトイレこそ相応しい。鶴見俊輔さんは「家族は親しい他人」と言ったそうです。これまた、重い言葉です。親しくしていますかね？　一昔前、上司に叱られた職場の同僚はトイレで泣いていたとか。トイレはいろんな意味で大事な空間のようです。▼あれ、兄がトイレのドアを叩いています。「早く出ろ」の催促です。

〒710-1301
岡山県倉敷市真備町箭田 5188
090-5366-1497
michi-care@outlook.jp
https://michi-care.jimdo.com/

林 道也

遠田　椋の木